



青 雲

第12号 令和7年3月21日発行

学び続けることが 成長の鍵である

3月21日。修了式を行い1年生65名、2年生62名が、新たな学年に進級することになりました。

今年度は学校教育目標「共に学び、共に生きる」のもと、保護者の皆様と地域の方々からのご理解、ご協力をいただきながら教育活動を進めることができましたことに感謝を申し上げます。

1921年にノーベル物理学賞を受賞したアインシュタインは、ドイツ生まれの理論物理学者で、20世紀を代表する科学者です。

「学び続けることが成長の鍵である」という彼の言葉は、常に新しいことを学び続けることで、自分自身を成長させることができるという可能性が込められています。

本校の生徒たちも、さまざまな学習や体験を通して、ひとりひとりが着実な成長を遂げています。これからも故郷に誇りをもち、地域に貢献する人材を育てていきます。これからもよろしくお願いいたします。

校長 目黒 健

修了式の様子

3月13日(木) 方上地方文化研究会が主催する文化講演会を本校視聴覚ホールで開催しました。

講師は、元秋田大学教育文化学部教授で家庭科の専門である佐々木信子先生です。

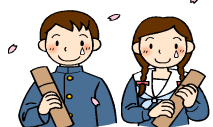
今回は初めて1年生の家庭科の授業の一環として参加させていただき、佐々木先生の秋田の食文化に対する研究内容をわかりやすく、しかも楽しくお話いただきました。

生徒は、調理実習で郷土料理の「だまこ鍋」を勉強しました。こうした体験を通じて故郷の食文化やよさを後世に伝承していくことにつながることを教えていただき、生徒たちも感慨深く聞き入っていました。

秋田の食文化を 伝承する



令和6年度 第75期生卒業証書授与式



59名全員が卒業証書を手に！



3月7日(金)、第75期生59名の卒業証書授与式が厳かな雰囲気の中で行われました。

当日は肌寒い天候でしたが、心地よい緊張感に包まれる中、校長が卒業生一人一人に卒業証書を手渡しました。また、「別れの歌」として『3月9日』を迫力のある男声と優しい女声で歌い上げ、たいへん感動的な卒業式となりました。その後、各教室で行われた最後の学活では、卒業生たちは、これまで共に学び、成長した友だちや学級担任との別れを惜しみながら、思い出を振り返っていました。放送室から音楽が流れると、在校生たちがつくった花道へ向かいました。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。それぞれの思いを胸に、自分の選んだ「新しいステージ」で輝くことを心から願っています。



卒業生入場



学級担任による氏名点呼



卒業証書授与



別れの歌「旅立ちの日に」



別れの歌「3月9日」



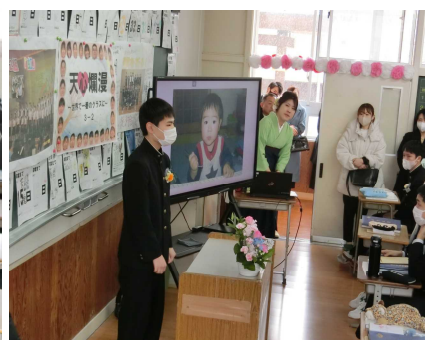
卒業生退場



後輩たちに見送られ



最後の学活(1組)



最後の学活(2組)

ご来校いただいた保護者の皆様、ご来賓の皆様、本当にありがとうございました。皆様の温かい拍手や見守りのおかげで、とてもよい卒業証書授与式となりました。今後も地域から羽城中学校を支えていただけると幸いです。

答辞 卒業生 天野 祥真

冬の寒さが和らぎ、窓から温かい日差しがふりそそぐ季節となりました。今日、私たちは、この羽城中学校を卒業します。

三年前の入学式、新しい環境での生活への期待と、ほんの少しの不安を抱き、この羽城中学校に足を踏み入れました。新しい仲間との出会い、難しい勉強、厳しい部活動。最初はこの生活に慣れるのが大変でしたが、仲間と支え合いながら乗り越えてきました。

一年生の宿泊学習では、シーカヤックや蕎麦作りなど、様々な活動を通して、仲間との親睦を深めることができました。

二年生になり、後輩ができました。よいお手本となれるよう、生活態度にも気を付けるようになりました。後期からは、全校を引っ張るリーダーとして、委員会や部活動で先頭に立つようになりました。これまでにない責任感の重さを感じ、多くの壁が立ちました。それでも、仲間と悩みや思いを共有し合いながら活動に取り組むことで、大きな達成感を感じることができました。

そして迎えた最高学年。羽城中学校での生活も残り一年となり、一日一日を大切に過ごしてきました。修学旅行では、班別自主活動で、班の仲間と一から計画を練り、東京で活動したことは、価値観を大きく広げ、主体性を伸ばす、貴重な経験になりました。悪天候のため、順延に順延を重ねた校内競技会。四つの色に分かれた縦割り班活動で活動しました。各色のリーダーとして、後輩と一致団結し、応援合戦や競技を練り広げ、行事を成功させた思い出は、大きな自信につながりました。羽城祭では、迫力のある吹奏楽部の演奏、個性が輝いたドリームステージなど、とても盛り上がりました。同日に行われた合唱コンクールでは、各クラス、各学年が最高の合唱にするために練習に励みました。本番では、全力を尽くして歌い、学級の絆がさらに深まりました。

今、こうして振り返ってみると、たくさんの思い出がよみがえります。三年間の中学校生活で得たものは、多くの「学び」です。仲間と協力することの大切さや、目標に向かって努力を重ねる大変さ。この羽城中で、この仲間だからこそ得られたことがたくさんありました。

私たちがどんなに辛い時でも、親身に寄り添い、指導してくださった先生方、本当にお世話になりました。先生方の授業や、放課後、休み時間に過ごした時間は、とても充実したものでした。ありがとうございました。

在校生のみなさん、委員会や行事、部活動で、ずっと支えてくれてありがとう。明るく、元気なみなさんはとても頼もしかったです。中学校生活は長いようで、とても短いです。仲間と過ごすかけがえのない日々を大切にしながら過ごしてください。沢山の思い出を、私たちと一緒に作ってくれて、ありがとうございました。

今まで、たくさん悩み、相談し合った家族。反抗期が邪魔をして、素直になれず、たくさん悩ませることがあったかもしれません。そんな時でも、常に一番近くで応援し、無償の愛で

支えてくれていたことに、今になって気付きました。感謝でいっぱいです。まだまだ未熟者な私たちを、これからも、よろしくお願いします。

そして、三年生のみなさん。みんなと笑い合った日々が、明日も続くような気がしてなりません。これまでの思い出が昨日の事のように思い出されます。正直なことを言えば、まだ、みんなと一緒に笑い合っていたいです。時には、誤解や勘違いが生じ、思いがすれちがうこともありましたが、そのような思い出も含めて、みんなと過ごした日々の全てが、とてもかけがえのない、大切な青春の一ページです。私は、この羽城中学校での生活を、ここににいるみんなと過ごすことができ、とても幸せでした。三年間、ありがとう。

私たちは、羽城中学校の生徒として過ごせたことを誇りに思います。私たちは最高の友達、後輩、家族、先生方に恵まれていました。この学び舎で過ごした経験を、これからの未来に活かしていきます。今、私たちの目の前には、新たな目標へ向かう、新しい道が広がっています。新しい環境で私たちは、確実に、一步一步前へ進んでいくことを、ここに約束します。卒業生一同、羽城中学校の益々の発展をお祈りして答辞といたします。

令和七年三月七日

卒業生代表 天野 祥真



友だちの活躍

◆第62回男鹿市卓球大会

ジュニアの部 優勝

2年 加賀谷 緋来 菅原 梨衣那

菅原 円香

◆U13全国ジャパンオープン・レスリングトーナメント

男子41kg級

1回戦 ●門間 心翔 0-8 熊澤(北海道)○

◆潟上市スポーツ賞

栄光賞

柔道 2年 牧野 巧俊

野球 2年 淡路 昊希

相撲 1年 佐々木 陽希

送辞 在校生 富樫美咲

寒今日、雪が積もったものの、春の訪れを感じるこの頃。木々が芽吹き、桜のつぼみが、卒業生の旅立ちを祝福しているかのようです。

この良き日に、羽城中学校を巣立つ、第七十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

大いなる希望を胸に入学してから、早三年。桜が舞う生徒玄関でのクラス発表、何度も上り下りした校舎の階段、友達と話し込んだ教室や廊下。数えきれないほど、たくさんの思い出があると思います。充実した日々は、きっとあっという間に過ぎていったのではないのでしょうか。

生徒会や部活動で一緒に活動する中で、特に私の印象に残っているのは、リーダーシップを発揮し、行事にひたむきに取り組む三年生の姿です。

雨天となり、屋内外で行われた校内競技会。全校が四つのチームに分かれ一致団結し、競い合いました。どの場面でも、三年生の皆さんが積極的にリードしてくださいました。そのような姿を見て、私たちもクラスの団結力が高まり、昨年以上に楽しむことができました。

羽城祭の「ひとりじゃないって最強だ。～pop!step!青春jump!～」というスローガンには、友達と団結することで自分自身も強くなり、今を全力で楽しむことで、希望に満ちた未来が待っているという思いが込められています。ここでも三年生はリーダーシップを発揮し、常に明るく前向きに取り組む姿で、私たちの模範となり、笑顔を与えてくれました。ドリームステージでは、三年生が大いに盛り上げ、この体育館が熱気でいっぱいになりました。

合唱コンクールでの心に響く歌声は、圧倒的でした。心を包み込むような温かさ、そして、力強い歌声が、会場で聞いている観客の心を振るわせました。

部活動では、目標達成のため、互いにアドバイスをし合い、真剣な表情で練習に取り組む姿から、私たちは、仲間と切磋琢磨することの大切さを学びました。最後の夏の大会での先輩方が流す汗や涙、そして笑顔は私たちにとってとても輝かしいものでした。

高校入試が近づき、より一層勉学に励む姿を見かけました。ひたむきに努力し続ける姿に、希望する道に進むことの厳しさと、夢や目標に向かって励む揺るがない意志の強さを感じました。

羽城三精神を尊重し、最高の仲間と過ごした三年間。先輩方は今、新たな世界への入り

口に立ち、まだ見ぬ未来へ羽ばたこうとしています。この先、進んでいく道は、平坦なものばかりではなく、ときに避けては通れない壁に直面することもあるかも知れません。しかし、周りには、いつでも仲間がいます。どうか、この羽城中学校で得た仲間を、ずっと大切にしてください。

私たち在校生は、それぞれの夢や目標に歩いていく皆さんを、心から応援しています。

今、私たちは、皆さんからバトンを受け取りました。皆さんが築いてきた羽城中学校の伝統をしっかりと受け継ぎ、生徒一丸となり、より良い学校にしていくことを誓い、送辞といたします。

令和七年三月七日

在校生代表 富樫 美咲



令和6年度 PTA表彰

本校では、毎年、PTA活動において役員を務めるなど、功績のあった3年生の保護者の方々を、PTA会長と校長名で表彰しています。今年度は9名の方に感謝状を、記念品とともに贈呈しました。お忙しい中、たいへんありがとうございました。(いくつかの役職を経験した皆様については、今年度の役職のみを記載しております)

奈良	拓史 様(3-2 鳳太郎)	会長
杉山	真希 様(3-1 理依花)	副会長
鑑	恵 様(3-2 葉)	議長
鑑	聡子 様(3-1 真 愛)	会計監事(R6)
山平	雄太 様(3-2 莉 子)	学年委員長(R6)
栗山	百花 様(3-2 理 夢)	学年委員長(R6)
鑑	昌之 様(3-1 真 愛)	学年委員長(R4)
古戸	大樹 様(3-2 翔 太)	学年委員長(R5)
小松	学 様(3-1 宗 詞)	校外指導部長(R5)